

報告番号 乙	第 号	氏 名	蔵田 彩
審 査 員	主 査 橋山正俊		
	副 査 青木 洋介		
	副 査 中尾 佳史		
論文題名	題 名 Instructing females to wipe their vulva after bowel movements is unnecessary to prevent cystitis: a short research report Int J of Urological Nursing 10,173-175, 2016		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、女性の排便後の外陰部清拭は、膀胱炎予防になるかどうかを科学的に検討したものである。単純性膀胱炎と診断された患者 171 例とコントロール例 103 例について、独自の質問表を用いて排便後の外陰部ケア法、トイレ様式、ADL、基礎疾患の有無、身長・体重について調査し、単純性膀胱炎との関連を解析した。排便後外陰ケアを肛門側から尿道側に行っているものは、膀胱炎群 48 例(28%)、対照群 29 例(28%)で有意差を認めなかった。トイレ様式、ADL、基礎疾患の有無、BMI に関しても有意差は認めなかった。これらの結果より、排便後のケアの方向と単純性膀胱炎との関連はなく、他の因子が関係しているものと考えられた。これまでの報告では性行為の回数との関連が示唆されている。</p> <p>これまで漫然と行われていた排便後ケアの指導法に根拠のないことを示した論文であり、今後の臨床においても有用であると考えた。よって本論文は、博士(医学)の論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>研究内容に関し、種々質問を行い、特に単純性膀胱炎の原因や海外での外陰ケアの状況について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同程度以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
論文審査日	平成 29 年 5 月 30 日	最終試験日	平成 29 年 5 月 30 日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 29年 8月 29日

報告番号 乙	第 号	氏 名	前田 美由紀
審 査 員	主 査	松尾 泉明	
	副 査	青木 洋介	
	副 査	寺本 憲功	
論文題名	<p>題 名 Study on rectal administration of azithromycin by suppository for pediatric use. 小児への適応に向けたアジスロマイシンの坐剤による直腸内投与の検討</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Int. Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 54(4), 263-268, 2016</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、アジスロマイシン (AZM) 坐剤の小児への臨床応用の可能性について述べている。</p> <p>これによると、AZM 細粒は小児の呼吸器感染症で比較的良好に使われているが、強い咳に伴う嘔吐や苦みのために内服できないケースが 34.5%にのぼった。そこで新たな剤形として坐剤を考え、AZM 坐剤の調整を検討した。まず、坐剤の基剤として油脂性と水溶性基剤について検討したところ、in vitro の溶出試験では水溶性基剤のほうが溶出率が高かったが、基剤のみの使用性試験の結果、水溶性基剤のほうが刺激性が強かったため、AZM 坐剤には油脂性基剤を用いることとした。この AZM 坐剤を健常成人 4名に投与し、薬物動態パラメーターを求めた結果、直腸内投与時の相対的生物学的利用率経口投与時の 20.3%であった。AZM 坐剤投与による重篤な有害事象の発現はみとめられず、小児へ応用できる可能性が示唆された。</p> <p>以上の成績は、AZM 坐剤の小児への臨床応用の可能性について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>薬理学に関し、種々質問を行い、特に抗菌剤の薬理について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
	合格	不合格	合格

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成29年8月28日

報告番号 乙	第 号	氏 名	馬場 才悟
審 査 員	主 査	安西 慶三	
	副 査	川口 淳	
	副 査	尾崎 岩太	
論文題名	<p>題 名</p> <p>Relationship between pulmonary function and elevated glycated hemoglobin levels in health checkups: A cross-sectional observational study in Japanese participants</p> <p>特定健診における呼吸機能と高いグリコヘモグロビン A1c の値との関連：日本の受診者における横断的研究</p> <p>Journal of epidemiology, Vol. 27, No. 11, 2017; in press</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、日本において、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の診断を受けていない特定健診受診者 1019 名を対象として1秒率による呼吸機能と空腹時血糖値、HbA1c との関連について述べている。</p> <p>これによると、空腹時血糖値、HbA1c が基準値を超えていた群は、1秒率が有意に低下していた。また呼吸機能検査で1秒率が70%未満であるのは、年齢60歳以上、HbA1c5.6%以上、喫煙者あるいは喫煙歴がある人で有意に多かった。</p> <p>以上の成績は、日本における特定健診の中でHbA1cが基準値より高く、高齢で喫煙者あるいは喫煙歴がある人にスパイロメトリーによる呼吸機能検査を推奨することはCOPDの早期発見に繋がることについて、新しい知見を加えたものである。特定健診の検査項目にあるHbA1cを活用してCOPDの早期発見に活用することは意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>予防医学に関し、種々質問を行い、特にCOPDと糖尿病について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格		学力の確認の結果
論文審査日	平成29年8月28日		最終試験日
			合格 不合格
			平成29年8月28日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成29年10月23日

報告番号 乙	第 号	氏 名	蒲池 紗央里
審 査 員	主 査	相島 慎一	
	副 査	藤本 一真	
	副 査	本間 栄三朗	
論文題名	題 名 Sarcopenia is a risk factor for the recurrence of hepatocellular carcinoma after curative treatment 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Hepatology Research, 46巻, 201-208, 2016年		
論文審査 結果の要旨	<p>筋肉量や筋力の低下が体のパフォーマンスを落とすということから、サルコペニアという概念が注目されており、多彩な疾患群においてサルコペニアと予後との関連が検討され、肝疾患については肝硬変患者の予後因子として報告されている。本研究では肝癌患者において治療後再発率、生存率との関連性を後ろ向きに検討した。</p> <p>対象はC型肝炎関連の肝癌患者で、肝切除46例、経皮的ラジオ焼灼術46例を施行され根治が確認されたChild-Pugh Aの92例。サルコペニアの評価は第三腰椎レベルの筋肉量(L3SMI; the third lumbar skeletal muscle index)を使用し、カットオフ値(男性52.4cm²/m²、女性38.5cm²/m²)以下をサルコペニア群とした。</p> <p>結果、サルコペニア群は61名で、治療後1, 3, 5年の肝癌再発率はサルコペニア群で39.1%、77.1%、81.7%であり、非サルコペニア群で23.5%、59.5%、75.7%であり、有意にサルコペニア群で再発率が高かった(p=0.03)。再発率に寄与する因子の多変量解析ではサルコペニアと術前AFP値>40ng/mlが抽出された。</p> <p>サルコペニアの診断基準はいまだ明確ではなく、筋減少症の改善による予後改善効果の検討も必要である。肝発癌との関連性は不明であるが、サルコペニアが根治治療後の肝癌患者における再発リスク因子であることを明らかにした。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行い、肝臓病学に関する質問を行ったが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、研究を指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行い、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	平成29年10月23日		最終試験日
			平成29年10月23日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 29 年 12 月 12 日

報告番号 乙	第 号	氏 名	忌部 航
審 査 員	主 査 入江裕之		
	副 査 安西慶三		
	副 査 江口 有一郎		
論文題名	題 名 Validation of the American Gastroenterological Association guidelines on management of intraductal papillary mucinous neoplasms: More than 5 years of follow-up 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 European Radiology, 2017 Aug 2. [Epub ahead of print]		
論文審査 結果の要旨	<p>2015年に米国から示された腫瘍性膵嚢胞のガイドライン(画像上低リスク群は5年間の経過観察において著変なければ検査を終了)の妥当性を検証することを目的とした。膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)と診断された患者を対象に後ろ向きコホート研究を行った。研究1はIPMNと診断されかつ1年以上の経過観察がおこなわれた患者392例を対象に高リスク群と低リスク群に分け、膵がん発生と死亡率の違いを検証した。研究2では5年間の経過観察中に変化のなかった低リスク群159例を対象に膵がん発生と死亡率を検証した。</p> <p>研究1では高リスク群の27.3%で膵がん発生を認めたのに対し、低リスク群では認めなかった($p < 0.01$)。死亡率は高リスク群では25%で、低リスク群では8.3%のみであった($p < 0.01$)。経過観察の中止が推奨される患者群を対象とした研究2では3例(1.9%)が膵がんを発症した。</p> <p>以上の成績は、少数例ではあるが経過観察を中止する群から膵がんが発生していることから、本ガイドラインは再検討を考慮すべきかもしれないとの新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	学力の確認は口頭試問により行った。最終試験において、各審査員から専門的な観点に立ち、論文内容および関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。		
論文審査の結果	合格 不合格	学力の確認の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 29 年 12 月 12 日	最終試験日	平成 29 年 12 月 12 日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 29年 12月 14日

報告番号 乙	第 号	氏 名	松本 圭一郎
審 査 員	主 査	相島 慎一	
	副 査	利根 栄三朗	
	副 査	夏田 芳史	
論文題名	題 名 Long-term Outcomes of Tonsillectomy for IgA Nephropathy Patients: A Retrospective Cohort Study, Two-center Analysis with the Inverse Probability Therapy Weighting Method Nephrology (Carlton), Epub ahead of print 2017		
論文審査結果の要旨	<p>IgA 腎症に対する扁桃摘出術の効果はいまだ議論があることから、本研究では扁桃摘出術（扁桃摘）が IgA 腎症の予後（末期腎不全もしくは死亡）に影響しているかどうか、扁桃摘群と非扁桃摘群を比較した。</p> <p>腎生検で IgA 腎症と診断された 227 例は、年齢中央値 34 歳（25～43 歳）、観察期間は 92 か月（40～178 か月）であり、主要評価項目は末期腎不全と全死亡とした。統計学的解析は Propensity Score を用いて、Inverse Probability Therapy Weighting (IPTW) 法とマッチング法による Cox ハザード解析を行い、さらに軽症群を抽出して同様の解析を行った。</p> <p>その結果、扁桃摘群と非扁桃摘群ではどちらの手法でも予後に有意差はなかった (IPTW 法; HR 0.40, p=0.072 とマッチング法; HR 0.78, p=0.786)。しかし、軽症群の解析では扁桃群に予後良好な傾向を認めた (HR, <0.001, p=0.039)。</p> <p>IgA 腎症が増悪する前に早期に扁桃摘出を行うことで末期腎不全や死亡を回避しうることを確認した。以上の結果は、これまでの議論に新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>腎臓学に関し、種々質問を行い詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行い外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
	合格	不合格	
論文審査日	平成 29年 12月 14日		最終試験日
			平成 29年 12月 14日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 30年 3月 1日

報告番号 乙	第 号	氏 名	明石 道昭
審 査 員		主 査	相島 慎一
		副 査	水口 高伸
		副 査	真鍋 洋也
論文題名	<p>題 名 Assessment of aggressiveness of rectal cancer using 3-T MRI: correlation between the apparent diffusion coefficient as a potential imaging biomarker and histologic prognostic factors</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Acta Radiologica, 55(5), 524-531, 2014</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>【背景・目的】MRIによる拡散強調画像(DWI)は、腫瘍の悪性度評価に有用であり、特に“みかけの拡散係数”である Apparent diffusion coefficient (ADC)がバイオマーカーとして期待されている。本研究では、放射線化学療法を受けていない患者の直腸がんの ADC 値が組織学的予後因子との関連において悪性度指標となり得るかどうかを評価した。【対象・方法】術前に 3-T MRI で DWI を含む撮影を行った 40 人の直腸癌（術前放射線化学療法なし）患者を対象として、ADC 値の平均値を測定し、術前 CEA 値、浸潤距離、T-stage, N-stage, 癌の組織学的分化度、リンパ管・静脈侵襲、直腸固有筋膜への浸潤などの因子と比較した。【結果】ADC 平均値は腫瘍分化度と優位に相関したが、それ以外の因子との相関は見られなかった。【考察】組織学的な間質成分の違いや腫瘍関連リンパ球浸潤が ADC 値に影響している可能性がある。【結論】術前化学療法を行わなかった進行直腸癌症例において 3-T MRI による平均 ADC 値と腫瘍の組織学的分化度は相関したことから、ADC 値は進行直腸癌の予後予測において imaging biomarker としての情報を与えることが可能である。以上の研究は進行直腸癌の予後因子と 3-T MRI による ADC 値の関連性を調べた初めての報告であり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。画像および病理診断学に関し、質問を行い詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	学力の確認の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 30年 3月 1日	最終試験日	平成 30年 3月 1日